加賀市議会議員　たかはし なみこ　活動報告

MINKAGA通信 No.5



私たちの声で未来が動く

発行日：2026年9月28日
発行者：髙橋菜見子
連絡先：contact@takahashinamiko.com

髙橋菜見子です。今回はボリュームが多くなってしまいましたが、加賀市議会本会議の9月定例会を終えてのご報告です。気になる分野はチェックしていただけると幸いです！

加賀市ビジョン策定について 01

Q 現在「加賀市ビジョン策定委員会」が開かれている。専門家同士がより活発に意見を交わせる場にするために、議論の進め方を工夫できないだろうか。

A ビジョン策定にあたり、市民の声を取り入れ、市内部でも検討会を開催し、委員会での議論のポイントをまとめ、自由な発言の場となるよう工夫した。策定のプロセスの透明性を保ちながら、より活発な議論となるよう取り組む。

議論の進め方は変えられないとのこと。ならば、議論のテーマと目的をいっそう明確にして、有意義な会議にしてほしいです！

加賀市教育ビジョンについて 02

Q 市は、保育・教育を移住の促進にも利用するとのこと。市長自身は「加賀市の教育」にどんな価値を見出しているのか問う。

A 加賀市教育ビジョンは、これからの義務教育において重要なことを表現したものになっている。また、学校の中に閉じない積極的な取組は、国の目指す方向性とも重なる価値ある取組であり、子育て世帯の移住においても教育は関心事項の一つである。この強みを様々な場面で活用していく。

教育は子育て世代の重要な関心事だということ、市の教育の方向性は価値あることと、納得されていて安心しました！

小中学校の公共施設マネジメントについて 03

Q 加賀市の建設事業は、新規整備は平均並みで、更新コストを重視した整備が必要と考える。小学校の統廃合についても更新コストを重視し、子どもたちのために計画を早急に進めてほしいが、今後のスケジュールや跡地活用、校区外通学の基準緩和について問う。

A 本年６月に「加賀市立学校施設の在り方に関する検討会議」を設置し、議論している。７月にはアンケート調査も実施。今年度検討会議で方向性をまとめた後、来年度中に計画を策定する予定。統廃合ありきの検討ではないため、方向性が見えてから、跡地利用計画や校区外通学の基準緩和についても十分に検討する。

これからの検討に期待します！

市役所の業務量と人員配置の適正化について 04

Q 市道や公共施設周辺の草刈りや環境整備が行き届かない背景には、職員の過剰な業務量があるのではないか。市民の困りごとにしっかり対応できる人員配置と業務見直しを求める。

A 複雑化する制度改正や地域課題、自然災害への対応等により、業務量は増加している。柔軟な対応が難しいことが課題と認識している。採用活動の強化や職員育成、適正な人員配置に努める。

業務の複雑化と多様化に加え、自然災害や感染症対応なども突然訪れます。このような事態に、市民と情報共有しながら協力し合っていける市が理想ですね。市民の皆さんとも一緒に考えたい課題です。



小児オンライン医療サービス事業について 01

Q 「子ども医療電話相談（#8000）」との違いや役割分担はどうなるのか。また、初めての子育てに悩む保護者へ、手当てや予防接種に関する助言指導をする仕組みも必要ではないか。

A まずは実証事業として実施し、効果と課題を確認する。#8000との違いは、医師による医療相談と診療で、処方された薬は加賀市医療センターで受け取ることができる。オンライン診療は保護者の負担軽減、選択肢の拡充になるり、適正受診の観点でも意義がある。乳幼児健診や各種教室を活用し、啓発に努める。



子ども医療相談の多くが「泣き止まない」「予防接種の副反応が出た」であることも忘れず、手を打って頂きたいです。



介護予防事業や介護給付費について 02

Q 現在の予防事業と介護給付費の状況はどのようになっているか。また今後はどうなるか？

A 加賀市は高齢化は進んでいるが要介護認定率や一人当たりの介護給付費は県内平均を下回っており、これまでの取組は一定の効果があった。「地域おたっしゃサークル」などへの高齢者の参加率は国の目標を上回る9.6%で、健康増進アプリの登録促進にも取り組んでいる。今年度は事業の見直しも行う。



高齢者が健康で元気であることは、家族の幸せに直結します。今後の取組にも期待しましょう。参加率も、9.6%からさらに伸びていくと良いですね！



介護人材不足の対策について 03

Q 介護人材確保への工夫はあるか。さらに、家族の介護をしている人同士がつながる場づくりや、プロから介護のコツを学べる機会を創出してはどうか。

A 今年度から就職奨励金や資格取得費用補助などの支援を強化している。また、家事支援サポーターを養成し訪問介護員と分担している。交流の機会としては認知症カフェ等を活用し、状況に応じた情報提供や技術指導等を行っている。地域包括支援センターなどが介護方法等の情報提供を行い、孤立を防ぐ支援を進めている。



認知症カフェのような取り組みで、認知症でない介護の方も、共感し合い励まし合える介護生活になっていくと良いなぁと思います。介護のコツは「質問すれば教えてもらえる」ということが周知できると良いですね！在宅と施設をうまく活用できる社会になるといいと思っています。

YouTube こちらの動画 2：08から

こちらの動画 冒頭から



子育て政策について 04

Q 先般開催した議会おでかけトークにおいて、「他の事業とのバランス」「子どもの年齢におけるバランス」「金銭的補助と人的援助のバランス」について要望があった。子育て支援について問う。

A 出産準備・子育て応援ギフト等の給付、保育料や小中学校給食費の完全無料化、十八歳までの医療費窓口無料化等、切れ目なく支援している。また、子育て寄添いおむつ事業やファミサポ設置等の寄添い支援、学童クラブ職員の研修参加支援等、保護者に寄添う体制も充実している。今後も市全体の事業とのバランスに配慮しつつ取り組んでいく。



加賀市の子育て支援は、まちがいなく全国トップレベルです。人的支援も、自信をもっておススメできるものが多いので、この取り組みがたくさんの方に周知されることを望みます。その上で、まだまだ改善の余地がある取り組みについても取組んで頂きたいです。